

JCS NEWS



CONTENTS

第9回 JCC 開催報告	2 - 5
チェロの日 Promotion	5
マスタークラス開催報告	6 - 7
アウトリーチ実施報告	8
チェロ・サロン開催報告	
事務局からのお知らせ	



Junior Cello Camp

第9回 ジュニア・チェロ・キャンプ

開催報告



OUTREACH

AUGUST 20, 2025

@ 国立病院機構千葉医療センター

Steven Isserlis
マスタークラス
開催報告



Junior Cello Camp

第9回 ジュニア・チェロ・キャンプ



ご指導いただいた先生／参加者数

■ソロ演奏コース／8名

苅田 雅治先生、河野 文昭先生、堤 剛先生、山崎 伸子先生、
田中 英明先生、諸田 由里子先生（ピアニスト）

■アドバンスト・アンサンブルコース／20名

堀 了介先生、山本 裕康先生、梶原 葉子先生、佐藤 韶先生

■ビギナーズ・アンサンブルコース／11名

中島 顕先生、内田 茉莉先生、田中 愛先生

Photo: ©藤本 崇



令和7年9月6日(土)、7日(日)に東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス(東京都目黒区)にて、第9回ジュニア・チェロ・キャンプ(以下 JCC)を開催しました。今年も台風接近により一部の方の交通に影響があるものの、無事に予定していた参加者全員が集い、全3コースを実施することが叶いました。JCC会期中は、初日にアカデミー、2日目にアカデミー、リハーサル、発表会を実施し、会終了後に同会場で1時間程度の懇親の時間を設けました。

今年も全国各地から39名の小・中学生にご参加いただきました。発表会会場には、東京音楽大学 TCMホールを初めて利用させていたただき、チェロ協会会員の方にもご来場いただきました。発表会途中では、本年度よりチエロ協会副理事長に就任した河野文昭先生、同じく副理事長の山崎伸子先生によるサプライズ演奏も行われました。素晴らしい音響の中、「一人の副理事長によるL・ボックケリー二作曲(P・バズレール編)」《2つのチェロのためのソナタハ長調 G・74》より第1、第3樂章を参加者みんなで鑑賞しました。緊張の様子だった子どもたちも、先生方の演奏に引き込まれ、自然と沢山の笑顔が溢れています。会場のご提供、ご協力いただきました東京音楽大学の皆さんには、深く御礼を申し上げます。

小・中学生の中でも、身近にチェロを弾く仲間がいることは多くないかもしれません。それでも、JCCを通してできた全国のお友達との絆が、演奏を試行錯誤し、生涯音楽を楽しむ一助となることを願つております。また今回は、参加関係者以外の会員にも発表会の鑑賞をいただいたほか、過去にJCCに参加された学生会員の方々にも運営にご協力もいただきました。今後も、チェロを愛する一員として見守り、仲間として迎え入れていただければ幸いです。第10回 JCCで再びお目にかかることがあります。

- 参 加 者 の 声**
- 著名な先生方が気さくにお声をかけてください、先生方の音楽の世界を少しでも吸収していくことができたと思います。友達もできて楽しめたので幸せな時間でした。
- 自分だけでアンサンブルの曲をひいているとどちらがって合わせてみたら音が重なり合ってとてもきれいだと思いました。友達もできて楽しめたです。
- 知識として知っていたことも、実際に先生が演奏されたり、歌って下さったことで、今まで見えていなかつた部分が、視界が広がったようになります。
- 緊張らしい先生方、緊張らしい環境の中で、チエロに集中できる時間を作っていたのです。とにかく先生が優しかったです。こうなったし、普段関わったことのない人と交流でき良かったです。
- 初めて参加したのですが、楽しかったの一言です。とにかく先生が優しかったです。こうなったし、普段関わったことのない人と交流でき良かったです。
- 素晴らしい先生方、緊張らしい環境の中で、チエロに集中できる時間を作っていたのです。とにかく、とてもいいキャンプでした。

229

川村 未来

V O I C E

中島 頸 先生より



山本 裕康 先生より

△開講式▽



保護者さまより

指導してくださる先生方の声かけがほんとうにすばらしく、わかりやすく、むずかしさもあり、子供たちはもちろん私自身も勉強させていただいた。最高の時間でした。

△開講式▽

△開講式▽

年齢でもずっと続いていて、今も仲間に支えられています。ですか

皆さん、おはようございます。山崎先生のご挨拶と重なっていますが、特にチエロという樂器の仲間は、繋がりが本当に強いです。自分は一人きりだと感じずに、みんなでアンサンブルなど演奏を楽しんでほしいと思います。頑張りましょうね。

私から一つだけお願ひしたいことがあります。チエロにはエンドピンというものがあり、それは凶器にもなります。以前飛行機に乗るときに「エンドピンを外してください」と言わられて、荷物として預けたことがあります。エンドピンは、機内に持ち込めないほど危ないものなのです。チエロを演奏する人がいる家は、床が傷だらけになってしまふから困る、危ない、そのような理由でチエロを弾いては駄目だと言われないよう、皆さんしっかりと管理し怪我しないようにしてください。キャンプ中、校舎内を走ることなどしないで、気を付けて過ごしましょう。よろしくお願ひします。

アンサンブルをするとチエロを横に置くことが多いと思います。僕自身は温厚な先生に習っていたのですが、その先生には一度だけ怒鳴られたことがあります。それはチエロを跨いだこと。その時は、ものすごく叱られました。チエロというのは、ちょっととしたことで引っかかる倒れると、割れてしまします。チエロを跨ぐといふことだけはしないでいただけたらと思います。そして、この学校の中は難しい迷路のようになつていて、一人では絶対出歩かないでください。迷うと戻つてこられないこともあるので、何か困ったことがあれば、スタッフや先生方に場所などを確認してください。では一日間、頑張りましょう。

△閉講式▽

最後に全員で合奏をしましたが、同じ舞台に立った人というのは、僕は全員仲間だと思っていました。皆さんのことを見つけていました。皆さん同士でも今後、学校や住む場所が違つても、同じ仲間だと強く思つてほしい。そういう友達がいて、そういう人たちに支えてもらつていても、同じ仲間だと強く思つてほしい。そのジユニア・チエロ・キャンプはとても重要な、年に一度だけの場だと思います。ぜひまた参加して、友達や仲間チエロの仲間を増やす日になつてほしいです。今回のアドバンストコースは、本当に短い期間でカノンとキャベツジョンという曲に取り組みましたが、レッスンの内容をきちんと演奏することができます。今までいました。またお会いできる日を楽しみにしています。

△閉講式▽

二日間ありがとうございました。今回、レッスンがあるという間に過ぎたように感じていて、いつも以上に楽しめました。皆さん友達もできて、こういう環境が二日だけではなく、半年くらいずっと続いてほしいと思いつつ、部屋でお稽古をしている時の音と、ステージでの音が全然違つていましたね。皆さん自身も、それに気が付いていました。このようなホールで弾けた経験というのは、大きいと感じています。アドバンストクラスの演奏も聴かせてもらいましたが、最初の音が出た時点でも「ああいい音だな」と思いました。また来年も演奏することを楽しみに参加してほしいと思います。どうもありがとうございました。

最後に全員で合奏をしましたが、同じ舞台に立った人というのは、僕は全員仲間だと思っていました。皆さんのことを見つけていました。皆さん同士でも今後、学校や住む場所が違つても、同じ仲間だと強く思つてほしい。そういう友達がいて、そういう人たちに支えてもらつていても、同じ仲間だと強く思つてほしい。そのジユニア・チエロ・キャンプはとても重要な、年に一度だけの場だと思います。ぜひまた参加して、友達や仲間チエロの仲間を増やす日になつてほしいです。今回のアドバンストコースは、本当に短い期間でカノンとキャベツジョンという曲に取り組みましたが、レッスンの内容をきちんと演奏することができます。今までいました。またお会いできる日を楽しみにしています。



アイスブレイク（質疑応答）の様子

△ 普段見ることのできないレッスンを拝聴して息子が大変感動しておりました。

△ チエロ・キャンプを終えてから息子が毎日のように、演奏が楽しい！早くジユニアオーケストラに入りたい！と話し、前向きに練習に取り組むようになり非常に嬉しく思っています。

△ 勉強が忙しい毎日ですが、ジユニア・チエロ・キャンプに参加できる事を目標に、日々チエロの練習に取り組んで参りました。今回4回目の参加をさせて頂き、大変貴重なご指導を頂き、改めてチエロのアンサンブルの素晴らしさを体感でき、チエロが大好きになりました。また来年のチエロ・キャンプに参加できる事を目標にマイペースですがチエロの練習に励みたいと思います。今後ともご指導を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

堤剛先生より

今回、TCMホールをお借りできたことで、大変多くの保護者様、ご関係者様に聴きに来ていただきました。チエロを弾くというのは、とても大変なことです。練習する、楽器を揃えること等、他にも様々なありますが、保護者様の温かい、そして力強い励ましがあってこそチエロを続けるのが可能になつてくると思います。今日お集まりの皆様にも深く感謝したいと思います。

今日のプログラムを拝見しても、様々な国の様々な文化的背景があります。チエロを上手く弾く、それはもう皆様は達成されていることだと思います。これからは、音符の後ろにあるもの、もつと深いもの、何が描いてあるか、どんな気持で作曲家は作曲したのか、どうしたら自分の良さ、チエロの音の素晴らしさを生かせるだろうか、作曲家の出身国、その国の芸術、文化などを広く勉強してほしいと思います。クラシック音楽、チエロの勉強をすることで、一人一人の可塑性、コミュニケーションが深くなり、より拓がっていきます。現在の世の中は、様々な問題があり、辛い時代だと思いますが、お互い共有できるものがあることで、それが究極的には世界平和に結びついていくのではないかと思います。今日は本当に皆様、ありがとうございました。



^閉講式▼

先生のお口が嫌いです。でも、うつして、くやめる事だと思って、チエロする宝物にですが、いかに丁だつたら慢ができます。うしても、かくやめる口として、チエロについても、うつして、くやめる事ができます。

参加者からの質問
練習中はお母さんが怖いです。
先生のお母さんお父さんも怖かつたですか。

アーティスト

今年はビギナースクラスを始め、皆様のレベルが非常に高くなつたと思います。それはすなはち、チエロを弾く、音楽をするということですが、「なにか特別なこと」ではなく「普通のこと」になつてきており、日本語を話す、日本食を食べるといったように日常生活の一部になつていると、言えると思います。それが、やがて楽器を弾いた時に自然と自分の音楽になるでしょう。今回、アンサンブルコースの皆様は本当に楽しそうに弾いていらっしゃいましたし、ソロコースの皆様は、一人一人が素晴らしい、各々の才能を發揮されていました。このご様子は、本当に色々な意味での抜かりの深さだと思つております。

今回、TCMホールをお借りできたことで、大変多くの保護者様、ご関係者様に聴きに来ていただきました。チエロを弾くこと、うのよ、じて

A portrait of a middle-aged man with grey hair, wearing a light-colored suit jacket over a white shirt. He is holding a black microphone in his right hand and gesturing with his left hand while speaking. The background is a plain, light-colored wall.

山崎伸子先生より

△開講式△

ンサンブルというのには、オルガンのような響きがありますが、このように大勢で集まる機会はとても貴重なので、皆さんのように若いうちから集まることができるこのような催しは本当に良い機会だと思っています。素晴らしい響きを皆さんで共有して、協力して聴きあって、音楽を作っていく素晴らしさを、今回経験してください。また、ぜひお友達をたくさん作ることに挑戦してほしいと思います。今日、明日と2日間だけですが、例えば自分の中に10人は作ろうとか、明日には何人お友達ができるかなという目標を持つて参加いただけたらと思います。

私の前に何人の先生がお話を下さいましたので、私はお話をすることがほんとありますね。へ中略
（参加者）に友達ができたか、弾いていて樂しかったかを質問）／＼アンサンブルの演奏を聴かせていただき、やはり小さく、子ども達の純な気持ちで弾く音というのは、すっと心の中に入つて、毎回感激いたします。
特に今回、このような素晴らしいホールで演奏させていただき、響きが良く、本当に日本は平和であることを痛感しますし、このような和む空気が、これからもいつまでもあつてほしいと心から思いました。
ジユニア・チエロ・キャンプは本当に良い催しだと毎回感じていますし、これまで9回続いています。来年からもずっと続けていきますので、今回の会で、とっても楽しく、いい気持ちで弾けたなら、ぜひ来年も参加してほしいと思います。



昼食時の様子



閉講式

一人の母親としてお答えしますが、まずチエロが嫌いにならないように導くことが基本だと思いますが、大変難しいことと思います。私も小さい年齢の子を教えていますが、人様の子どももだつたら我慢できることも、自分の子どもは我慢ができない、ということもありますよね。それについてはお母さんの修行として我慢する。どうしても本人がチエロが嫌いだつたら、仕方なくやめる選択肢もありますが、やめなくとも、プロとして続けなくとも、やつぱり生涯の友としてチエロが弹けるというのは本当に人生における宝物になると思います。へ中略＼何事もそうですが、チエロを続けさせるということは良い事だと思います。子どもとの接し方は飴と鞭をいかに工夫するか。これについてはぜひ学んで

練習中はお母さんが怖いです。
先生のお母さんお父さんも怖かったですか。

アーティスト

『……』といつたように日常生活の一部になつていると
言えると思います。それがやがて楽器を弾いた
時に自然と自分の音楽になるでしょう。今回、ア
ンサンブルコースの皆様は本当に楽しそうに弾
いていらっしゃいましたし、ソロコースの皆様
は、一人一人が素晴らしい、各々の才能を發揮さ
れていました。このご様子は本当に色々な意味
での拡がりの深さだと思つております。

今回、TCMホールをお借りできたことで、
大変多くの保護者様、ご関係者様に聴きに来て
いただきました。チエコを聴くこと、うのよ、じて

A black and white photograph of a man with glasses, wearing a suit and tie, speaking into a microphone. He appears to be giving a speech or presentation. The background shows a wooden panel wall.

私の前に何人の先生がお話くださいましたので、私はお話することがほとんどありませんね。△中略

A photograph of a man in a suit speaking into a microphone. He is gesturing with his hands while speaking. The background is dark, suggesting an indoor event.



修了証授与式



合同アンサンブルの演奏



閉講式



ピギナーズ・アンサンブルの演奏

出逢いも、
絆も
チェロの響きのなかに

チエロの日 Promotion

2026年1月17日(土)・18日(日)於 サントリーホール ブルーローズ

R-324

林俊昭



今回、チエロの日で演奏させて頂き、大変有難く思っております。

私は若い頃から妻の林由香子とチエロとピアノのデュオに取組み、3年前に50周年を迎えて各地で記念コンサートを行いました。若い頃イタリアに留学し、その後仕事を得て8年半滞在し、帰国してからも、イタリアでの演奏会や講習会の講師を長年務めるなど、イタリアとの縁が深いのですが演奏会のプログラムというと日本ではやはりドイツの作品が圧倒的に多く、その次にフランス、ロシアで、イタリアの作品を弾く機会がほとんど無いまま、現在になってしましました。そのようないこともあり、今回は是非イタリアの作品を紹介したいと、うな気持ちが湧き、イタリアのロマン派から近代のデュオの曲を中心にプログラムを組みました。

特に3曲目、マリピエロ作曲の「ソナティナ」は、1982年の誕生100年にヴェネト州のアゾロ村(彼が愛し、長く過ごした地)に招かれて演奏したこともあり、私達にとって大変思い出深い曲になっています。

R-324

石川祐支



©amigraphy

このたび「チエロの日」に出演の機会をいただき、とても光栄に思います。日ごろからチエロを愛する多くの皆さまと同じ時間を過ごせることに、心から感謝致します。

R-324 ©amigraphy

2026年は、チエロの巨匠パブロ・カザルスの生誕150年という節目の年です。カザルスはスペイン出身のチエロ奏者、指揮者、作曲家で、チエロの演奏法を確立し、音楽的な功績だけでなく平和活動家としても世界中で知られた人物です。

今回は、スペインに留学され、現地の音楽にも深い親しみを持つピアニスト・西本夏生さんと一緒にします。プログラムは、カザルスとゆかりの深いスペインの作曲家たちの作品で構成しました。弟子であったカサドの「親愛なる言葉」に始まり、グラナドスの「インテルメツォ」と「マドリガル」で温かな旋律を味わっていただきます。続くモンポウの「橋」は、カザルス生誕100年に際したスペイン文科省委嘱作品としてチエロとピアノのために作曲されました。静けさの中に宿る祈りのような響きを感じて頂けると思います。ファリヤの「七つのスペイン民謡」では情熱的で多彩なスペインのリズムで楽しんで頂ければ嬉しいです。そして最後は、カザルスが生涯大切にした「鳥の歌」を。没後半世紀を迎えた今、その心を音に込めてお届けしたいと思っています。



開催日：2025年10月20日（月）
会場：音楽の友ホール（新宿区）
講師：スティーヴン・イッサーリス
通訳：高島まき
受講生：3名 伴奏者：3名
来場者数：173名（会員60名、非会員106名、関係者7名）

Photo : ©藤本 崇

S-251 丸山 悅未子

ピアノ：北端 祥人

この度は、スティーヴン・イッサーリス先生のチェロ公開マスタークラスを受講させていただき、ありがとうございました。

憧れのイッサーリス先生、そしてチェロを愛する多くの皆様の前で演奏させていただくことは、大変光栄であり、身の引き締まる思いでした。緊張の中にも、先生がユーモアを交えながら丁寧にご指導くださったおかげで、幸せな気持ちでレッスンを受けることができました。今回、私はショパン作曲《チェロ・ソナタ Op.65》より第2.3楽章を演奏いたしました。この曲を学ぶ中で、音色やフレーズのつくり方に難しさを感じていたのですが、先生から主に2つの大切なポイントを教えていただきました。

一つ目は、フレーズの中でどの音が最も重要なのかを考えることです。これまで「なんとなく」の感覚で弾いてしまっていた自分の演奏が、いかに意識不足であったかを痛感しました。ピアノの和声をよく理解し、その上で大切な音を見極めることで、音楽の方向性がより明確になることを学びました。

二つ目は、右手の使い方についてです。特に緩徐楽章である第3楽章では、メロディを歌うように奏でる滑らかさや、伴奏パートに回った際の音色のつくり方に苦戦していました。右手の技術的な都合で不要なアクセントや強弱がつかないよう、より繊細なコントロールが必要だと感じました。

レッスン中、先生が私のすぐそばでお手本を示してくださったのですが、その一音一音が本当に美しく、まるで夢のような時間でした。私もいつか、先生のように美しい音色で聴く人の心を動かせるよう、これからも精進してまいります。

最後になりましたが、このような素晴らしいマスタークラスを企画・運営してくださり、温かいサポートで支えてくださった日本チェロ協会の皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



S-213 藤原 寛太

ピアノ：諸田 由里子

「Don't be a Cellist !!」

これは、今回私が受講させていただいたスティーヴン・イッサーリス先生のマスタークラスの中で、先生が最も力強くおっしゃっていた言葉です。受講曲に選んだのは、ドヴォルザークのチェロ協奏曲。最初に演奏を弾き終えた後で先生は、「時に英雄のようで、時に詩人のようで、そして他はチェリストだった」とおっしゃってくださいましたが、最初はあまり意味がわかりませんでした。ですがレッスンを進めていく中で、先生のおっしゃるその「チェリストになってはいけない」という意味が、段々とわかつきました。その一番の答えたのは、先生の演奏です。

今回、私はステージ上のとても近い距離で先生の演奏を聴くことができたのですが、演奏している時の先生は、英雄や詩人、時に人ではなく小鳥のさえずりや郷愁の香りといった、チェリストはおろか人間としての枠を超えていたように感じました。先生はその演奏の秘密を明かすかのように、曲に対する細かなイメージを教えてくださいました。最も印象的だったのが、途中の第二主題、dolce e molto sostenutoの部分についてで、先生は「ドヴォルザークが小さなベッドから体を起こして、早朝の散歩に出掛けている。この部分は、そこで鳴いている小鳥たちの歌なんだ」と教えてくださいました。そして、そのイメージを強く持って弾いた時、私はチェロを弾いているのではなく、表現者という枠を超えた、今まで感じしたことのない感覚に浸っていました。そのようなイメージを常に持ちながら、物語をお客様に届けて欲しいと教えていただきました。ずっと「チェロを上手に弾くこと」に集中してしまっていた私でしたが、より自由で大きな世界に目を向けることができるようになったと思います。

このような素晴らしいマスタークラスを企画、参加の機会をくださった日本チェロ協会の皆様に、心から感謝を申し上げます。



開催報告

2025年10月20日(月)スティーヴン・イッサーリス氏を講師に迎え、受講者3名によるマスタークラスを音楽の友ホールにて開催いたしました。平日の夜にもかかわらず、全国各地から多くの学生やチェロ愛好家がイッサーリス氏のご指導にご関心寄せてください、聴講チケットは事前に全席完売、キャンセル待ちとなりました。現代最高のチェリストの一人として比類のない多彩な活動を展開しているイッサーリス先生の公開レッスンは、3部に分かれ、休憩を挟みながら各部45分ずつ行われました。

最初の受講生は、東京音楽大学に在学の藤原寛太さん。ドヴォルザークの「**チェロ協奏曲 口短調 作品104 第1楽章**」を演奏されました。第2部は東京藝術大学音楽学部に在学の丸山悦未子さんにより、ショパンの「**チェロソナタト短調 作品65 第2、3楽章**」を。第3部に登場いただいたのは桐朋学園大学に在学の村上真璃南さん。シューベルトの「**アルベジヨーネソナタ 第1、3楽章**」を演奏いただきました。

「普通のチェリストにならないように。他の音も聞きハーモニーを大事に、物語の語り手のように。」等、心に残る指導のお言葉の数々を始め、瞬時に受講生の演奏の課題を見極め、細部にわたる技術的なアドバイス、作品の解釈やイメージの描き方などを先生が説明なさるたび、作品の魅力がより引き出されていきました。先生ご自身によるチェロ演奏を交えながらのご指導を通じ、各受講生の演奏が変化していく瞬間に立会いくださった聴講生の方々にとっても、沢山の学びを得た時間だったこと思います。閉講後には、聴講生の方から「イギリスの文化に裏打ちされた表現力とユーモアとエネルギーに溢れたご指導ぶりに、大いに刺激を受けました」等のお声も頂きました。

日本チェロ協会では、引き続き多くの方が待望するマスタークラスを開催して参りますので、次回もより多くの皆様に足をお運び頂けることを心より願っております。



S-280 村上 真璃南

ピアノ：吉武 優

この度はスティーヴン・イッサーリス先生のマスタークラスを受講する機会を頂きありがとうございました。アルベジヨーネソナタは大好きな曲ですが本当に難しく、少し緊張して弾いていたところ、もっと上を向いて！あなたが楽しんで弾かないと聴いている方も楽ししくならないよ、と言われ、思い切って楽しく弾く覚悟を持つ事ができました。また、無意識につけてしまっていたアクセントを指摘され、それに気をつけて弾くとすごく音楽の流れがよくなる事を実感しました。曲の中で物語の場面が変わる時の呼吸、フレーズの中で一番大切な音は何かを常に考える事や、弓の使い方、量をもっと考える事などを教えて頂きました。特に弓については、この部分は弓が踊っているように弾きなさい、弓は生き物だと思って扱いなさいと言われた事が印象に残りました。

受講時間の後半は良くなってきた！と褒めて頂き、イッサーリス先生が一緒に弾いてくださいり、ピアノの吉武先生と3人で演奏する形になったときには、なんて幸せな時間なのだろうと思いながら演奏し本当に楽しかったです。

受講後、イッサーリス先生から、言った事にすぐ反応できていてよかったよ、と言って頂きましたが、チェロという楽器を使って物語を語る人でいなければならぬ、オケやピアノの音全てを理解し、調性を理解している事、アクセントの種類、ビブラートの種類は語りたい内容によって変える事、という先生の言葉を大事にして、受講した内容が身につくように練習を重ねていきたいと思います。

最後に、私は中学生の頃、毎年チェロ協会主催のチェロキャンプに参加しておりました。キャンプでの勉強で仲間もでき、益々チェロを弾く事が楽しくなり、協会主催の今回のマスタークラス参加へと繋がっている事を本当に有り難く思っております。協会の関係者の皆様が優しい心配りをしてくださったおかげで不安なく演奏することができました。心より感謝申し上げます。



